

令和２年度事業報告書

今年度事業推進上の基本方針

「瀬戸内海環境保全協会」の設立趣意を踏まえつつ、次の方針のもと事業を展開する。

「瀬戸内海の環境保全・創造」に関する活動拠点、瀬戸内海の各種対策のコーディネータとして、

- (1) 瀬戸内海の環境活動、環境学習に関する指導者のネットワーク構築、教材等作成提供
- (2) 瀬戸内海の栄養塩類や生物多様性等新たな課題に対する調査研究
- (3) 瀬戸内海に関する各種情報、データの収集・発信
の中心的な役割を目指して事業を進めることとする。

また、事業実施にあたっては、瀬戸内海に関係する府県市、漁業団体、環境衛生団体の緊密な連携のもと、新たな水環境の考え方の一つである「(森・川・海の)流域管理」や「里海」をキーワードとしながら、環境省や瀬戸内海環境保全知事・市長会議、瀬戸内海研究会との連携をさらに密にし、豊かで美しい瀬戸内海を後世に継承していくための事業展開を図っていく。

I 事業

1 瀬戸内海の環境保全・創造に関する普及啓発、活動支援及び情報収集・提供

(1) 普及啓発・活動支援

①令和２年度瀬戸内海環境保全月間の実施

環境省が毎年６月に実施する「環境月間」にあわせ、国、関係府県市、関係各種団体、関係企業などとの連携・協力のもとに、瀬戸内海の保全に関する広域的なキャンペーン活動を展開した。

期間：令和2年6月1日（月）から30日（火）までの1ヶ月間

主唱：公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会

後援：環境省

実施主体：関係府県市、関係各種団体、関係企業等

実施内容：

- ・「瀬戸内海環境保全月間」の広報
- ・「瀬戸内海環境保全推進ポスター」の配布・掲出
- ・普及啓発用リーフレット・グッズ等の配布
- ・パネル・絵画・写真の展示
- ・環境保全に関する講演会、研修会等の開催、協力
- ・水辺、浜辺での自然・生物観察等「自然観察会」の開催、協力
- ・河川、海岸等のクリーンアップ、植樹等の地域美化活動の実施
- ・河川、海域での水質・生物調査、環境パトロールの実施

②瀬戸内海環境保全推進ポスター*事業の展開

瀬戸内海の環境保全意識の高揚を図るため、次の事業を実施した。

ア 令和2年度瀬戸内海環境保全推進ポスターの配布・掲示

令和元年度に公募し、選定された最優秀作品を令和2年度瀬戸内海環境保全推進ポスターとして作成し、瀬戸内海環境保全月間に合わせて関係機関に配布して、瀬戸内海環境保全月間以降も広く掲示した。

なお、最優秀作品、優秀作品については定時総会で表彰する予定であったが、新型コロナウイルス感染症を鑑み、定時総会は書面開催として、表彰式は実施しなかった。

・配布枚数：5,000枚

※ このポスターについては、従来、「瀬戸内海環境保全月間」ポスターとして作成してきましたが、令和2年度からは、瀬戸内海の環境保全について年間を通じて広く認識いただくため、「瀬戸内海環境保全推進」ポスターとした。

〔令和2年度瀬戸内海環境保全推進ポスター最優秀作品・優秀作品〕



最優秀賞 清重 郁子
(徳島県名西郡)



優秀賞 松本 侑斗 (小学生)
(愛媛県伊予郡)



優秀賞 杉原 穂乃花 (高校生)
(広島県尾道市)

イ 瀬戸内海環境保全推進ポスター原画の展示

例年、定時総会、瀬戸内海環境保全知事・市長会議総会にあわせて原画展を実施してきたが、新型コロナウイルス感染症を鑑み、これらがいずれも書面開催となり、原画展は実施しなかった。

このため、一般の方に一人でも多く瀬戸内海に関心を持ってもらうことを目的に、一般の方を対象に以下の3ヶ所で、協会が保有している瀬戸内海環境保全推進（月間）ポスター入選作品の原画を展示し、環境保全の啓発を図った。

イ) ブルメールHAT神戸 1 階

期間：令和2年8月18日（火）～8月31日（月）

時間：10：00～21：00

場所：神戸市中央区脇浜海岸通2-2-2

ブルメールHAT神戸 1 階



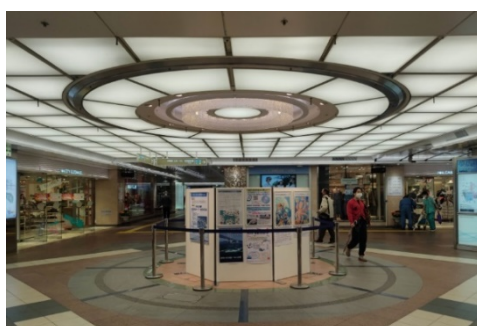
ブルメールHAT神戸での原画展

ロ) さんちか夢広場

期間：令和2年10月9日（金）～10月12日（月）

時間：10：00～20：00（最終日のみ19：00まで）

場所：神戸市中央区三宮町1-10-1 さんちか夢広場



さんちか夢広場での原画展



さんちか夢広場での原画展

ハ) コジマホールディングス西区民文化センター(広島県公衆衛生大会)

期間：令和2年11月26日（木）

時間：13：15～15：30

場所：広島市西区横川新町6番1号



広島県公衆衛生大会での原画展



広島県公衆衛生大会での原画展

ウ 令和3年度瀬戸内海環境保全推進ポスター募集・選定

令和3年度瀬戸内海環境保全月間に向け、ポスターの原画を募集し、入選作品を選定した。

- ・ 作品募集期間：令和2年6月1日（月）～11月30日（月）
- ・ ポスター選定委員会の開催：令和3年2月17日（水）
- ・ ポスター応募数：一般部門 174件 こども部門 255件 総数 429件

②瀬戸内海環境保全への支援

ア 「里海づくり」支援事業の展開

地域住民等に対する瀬戸内海の環境保全意識の啓発、理解及び活動参加の推進を図るため、会員府県市が実施する人と自然が共生する「里海づくり」に係る環境学習事業や環境ボランティア人材育成事業に対し、資材（水生生物下敷、水質パックテスト等）を提供し支援を行った。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、6月と9月の2回にわたって支援事業の募集を行うとともに、以下の資材を新たに追加した。

- 支援対象事業 ・自然観察会や子どもたちを対象とした環境学習
・環境ボランティアの人材育成

支援府県市：11府県12市（元年度は13府県14市）

事業実施期間：令和2年7月1日（月）～令和3年1月31日（金）

（新たに追加した資材）



海辺の生きもの図鑑
（はっ水仕様）



瀬戸内版
魚魚（とと）あわせ（カードゲーム）
（瀬戸内海版）



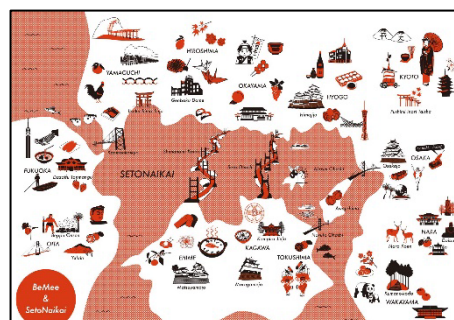
レイメイ藤井先生おススメ探検ボード
（クリップボード）



S サイズ



M サイズ



図柄

瀬戸内海の図が入ったチャリティーブランド「BeMee」のエコバッグ

イ 環境保全事業への支援

環境衛生団体や漁業団体が行っている浜辺の清掃や環境美化等、各種環境保全・創造活動事業に対し、その活動費用の一部を助成した。

助成団体数：5 環境衛生団体、8 漁業団体

事業実施期間 令和2年4月 1 日（水）～令和3年3月31日（水）

③環境保全研修の実施

ア 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラム研修の実施

瀬戸内海を豊かで美しい海にするためには、様々な環境技術の継承や知識が求められており、新たに水環境保全業務に従事する職員を対象に、瀬戸内海の新たな取り組みなどについて研修を行った。

- ・日時：令和2年10月27日（火）～29日（木）
- ・場所：大阪府 おおさかATCグリーンエコプラザ セミナールーム
- ・参加人数：12名（4府県7市1団体）
- ・講義：
 - 「瀬戸内海の海洋環境総論 ～過去・現在・未来の視点で～」
講師 広島大学 名誉教授 松田 治
 - 「瀬戸内海における今後の環境保全の方策の在り方について」
講師 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室 佐藤 文哉
 - 「瀬戸内海の水産資源から見た環境の変遷」
講師 水産大学校 元代表 鷺尾 圭司
 - 「豊かな大阪湾の創出に向けた大阪府の取り組みについて」
講師 大阪府環境保全課環境計画グループ総括主査 山本 祐一
 - 「大阪湾フェニックス計画と大阪湾の海域環境保全に向けた取り組み」
講師 大阪湾広域臨海環境整備センター 環境課長 石倉 洋介
 - 「大阪湾の環境への影響因子と管理・改善状況」
講師 大阪大学大学院 教授 西田 修三

・現地研修（視察）：

- 視察 「エコプラザ環境ブースで学ぶ」
説明：おおさかグリーンエコプラザ
- 視察 「南港野鳥園の人工干潟」
説明：NPO南港ウェットランドグループ
- 視察 「展望台から見る大阪港～大阪湾」
説明：大阪府環境保全課
- 視察 「海遊館で学ぶ」
説明：海遊館

・班別討議及び全体討議

研修生を3つの班に分け、次の3つのテーマについて班別討議し、その後、全体討議を行った。

- ①藻場・干潟の保全・再生・創造
- ②漂流・漂着・海底ごみ対策の推進
- ③海域の栄養塩類管理の推進

・備考

今年度初めて、会員は講義動画をWeb上で視聴できるようにした。
(11月6日～12月25日の間)



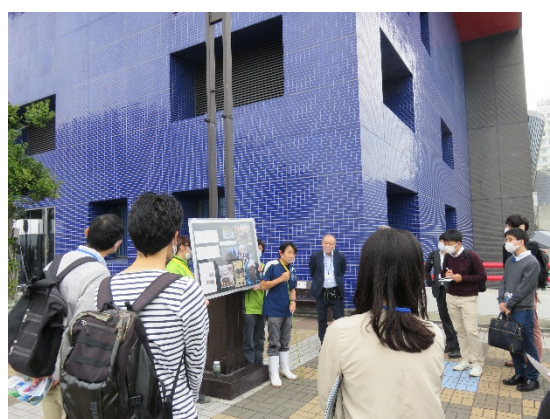
講義



講義



視察（南港野鳥園）



視察（海遊館）



ワークショップ（班別討議）



ワークショップ（全体討議）

イ 瀬戸内海的环境保全に関する各団体合同研修会の開催

当協会設立の原動力の一つである環境衛生団体と連携して瀬戸内海的环境保全を推進していくため、同団体の合同研修会を共同で令和2年11月20日、

福岡県行橋市内で開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症に鑑み、中止とした。

ウ 瀬戸内海的环境保全に関する賛助会員等研修会の開催

当協会の賛助会員であり、ともに瀬戸内海的环境保全に取り組んでいる企業間のネットワークづくりの場として、企業ニーズを踏まえながら研修会を実施した。

研修内容は、前回の研修会参加者へのアンケート結果を踏まえ、賛助会員部会で検討を行い決定した。

1) 第1回研修会（見学）

- ・日 時：令和2年11月13日（金）
- ・テーマ：水素エネルギー及び下水汚泥の有効利用
- ・見学先：① 神戸水素コージェネレーションシステム(CGS)実証プラント、
神戸空港島液化水素荷役基地（神戸市中央区）
（川崎重工業㈱と㈱大林組がNEDO助成事業において実施）
② 神戸市東灘処理場（神戸市東灘区）
（下水汚泥から自動車燃料・都市ガス用の天然ガスを精製する施設等）
- ・参加人数：26名

2) 第2回研修会（座学） **実開催+Web参加のハイブリッドで開催**

テーマ：豊かな瀬戸内海の実現に向けた今後の方向性について

- ・日時：令和3年1月27日（水）
- ・場所：三宮研修センター 8階 805号室（神戸市中央区八幡通4-2-12）
- ・講演：「瀬戸内海における水環境の変遷と豊かな生態系の回復について」
講師 放送大学 副学長 岡田 光正
「瀬戸内海における今後の水環境行政について」
講師 環境省閉鎖性海域対策室
「豊かな瀬戸内海に向けた兵庫県の水環境に係る取組について」
講師 兵庫県水大気課
「イカナゴ漁業から見た瀬戸内海東部の水産業の現状と今後の在り方について」
講師 兵庫県立水産技術センター 技術参与 反田 實
- ・参加人数：100名（うちWeb参加は80名）

エ 特別講演会の開催

令和2年度定時総会の終了後、同じ会場で特別講演会を開催する予定であったが、定時総会が新型コロナウイルス感染症に鑑み、書面開催となったため、中止とした。

④環境保全事業への参加・協力

ア 会員等主催事業への参加・支援

会員等が主催する環境イベントにおいてパネル（里海・瀬戸内海フォトコンテスト入選作品等）の展示、資料、啓発物品の配布等を行い、瀬戸内海の環境保全の普及・広報に努めた。

イ) 第57回北九州市環境衛生大会の後援

ロ) ひょうごエコフェスティバル2020（令和2年10月）に出展し、環境クイズ等による広報活動を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症に鑑み、当該フェスティバルは中止となった。

ハ) 特定非営利活動法人瀬戸内海研究会が主催する「令和2年度瀬戸内海研究フォーラム in 福岡（8月下旬に開催予定であった）」で各種環境保全事業へのパネルの貸出などの支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症に鑑み、当該フォーラムが1年延期となった。

イ 環境NGO・NPO等との連携・支援

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO・NPOとの連携や支援を行った。

イ) 後援名義使用の承認

・ 3海峡クリーンアップ大作戦（鳴門海峡・紀淡海峡・明石海峡）の後援

ロ) 著作物等の使用許諾（瀬戸内海環境保全推進ポスターの電子データ）

・ 一般社団法人 働く女性のサポートセンター Woman's heart

・ NHK松山放送局

・ 四国放送

⑤海文化事業の推進

瀬戸内海が持つ自然や歴史、食文化等多様な地域資源を背景に、瀬戸内海で結ばれている地域住民の生活・文化の交流を通じて、環境保全への一層の意識醸成を図り、「豊かで美しい瀬戸内海」を実現するため、海文化委員会を開催し、鷲尾圭司氏（元水産大学校代表）など有識者の意見を聞きながら検討を進めた。

令和2年度は、「瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み」について検討を進め、発行した。（令和3年2月発行：250部）

⑥瀬戸内海環境保全に関する関係府県市・団体との連携

ア 瀬戸内海再生に向けた取り組みの推進

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等、豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策が総合的、計画的に推進されるよう、平成16年から瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、種々の取り組みを進めている。

イ 国に対する提案

栄養塩の適正管理や藻場、干潟の保全等、単独の府県だけでは取り組めない瀬戸内海の広域的な課題の解決に向けた調査・研究に取り組むため、国に提案を行った。

- ・ 提案日：令和2年7月3日（金）～7月31日（金）
- ・ 提案先：環境省(25人)、水産庁(12人)、財務省(22人)、国土交通省(28人)
計87人

（提案事項）

・ 施策の推進

- (1)瀬戸内海の環境保全・再生・創出のための普及活動、環境教育・環境学習事業及び参加型環境保全活動事業並びに新たな視点での水環境を基調とした海文化を通じた環境啓発事業の推進
- (2)瀬戸内海の自然景観と文化的景観の保全と再生に向けた取組（自然、文化、歴史等の既存の情報収集とその広報活動を含む）
- (3)地域で活動している NPO 団体との連携による地域づくり活動の実施体制の構築（指導者やボランティアの育成）
- (4)漁業が持続可能な豊かな海づくりのための適切な栄養塩類濃度レベルの維持及び円滑な物質循環の確保に向けた湾・灘ごと等の地域の実情に応じたきめ細やかな水質管理や順応的な取組の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (5)藻場、干潟等の浅場の整備、環境配慮型護岸の整備、底質の改善、赤潮防止対策の推進、海ごみ（漂着、漂流及び海底ごみ）対策の推進など海域の環境の保全・再生及び創出
- (6)瀬戸内海特有の景観を活用し、エコツーリズム推進法に基づいたエコツーリズムを行うことにより、島しょ部等地域が持つ特有の魅力の再評価及び地域の活性化を図る事業の推進方策、評価手法の具体化及び財政支援
- (7)水質浄化・物質循環に寄与する二枚貝等を捕食する有害生物対策の推進

・ 調査研究

- (8)瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実（特に生物、藻場、干潟等の自然環境情報）及び瀬戸内海環境情報基本調査の継続実施
- (9)瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
- (10)藻場・干潟の機能と造成効果に関する調査研究
- (11)栄養塩類の働きを踏まえた高次生態系モデルの構築に関する調査研究
- (12)施肥及び下水処理場の管理運転等による栄養塩類供給手法が海藻や貝類等の生物の成長及び水産資源等に与える影響に関する調査研究
- (13)海ごみの発生実態、効果的な流入防止対策、発生抑制への取組みに関する調査・研究

(14)瀬戸内海研究会議の調査研究及び普及・教育活動に対する支援

ウ 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進を図るため、研修会の充実やセミナー等での広報に努めた。

また、令和2年度は、次の措置を行っている。

- イ) 賛助会員が瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムに参加する際の旅費の半額補助
- ロ) 協会HPにおける賛助会員紹介コーナーの見直し

エ 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

特定非営利活動法人瀬戸内海研究会議（平成25年4月1日設立）の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進について支援・協力を行う。

- ・瀬戸内海研究フォーラム in 福岡（令和2年8月）については、後援、開催協力を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症に鑑み、当該フォーラムが1年延期となった。
- ・瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ（令和2年12月8日（火））の後援、開催協力(実開催+Web参加のハイブリッド形式で開催)
テーマ：知っているようで知らない瀬戸内海

オ 国際的な活動への協力

（公財）国際エメックスセンターが行う国際的な行事について協力を行った。

(2)情報共有・発信事業

瀬戸内海の環境保全にかかる現状や、瀬戸内海のあり方、行政施策に関する情報を収集し、今後の施策や事業の連携、協調を図るため、府県市、漁業団体、環境衛生団体等の会員をはじめ、関係する市民等に広く情報を発信し共有した。

①総合誌「瀬戸内海」の発行・配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を発行・配布するとともに協会ホームページに会員限定で掲載した。

- ・発行回数：年2回

第80号：令和2年9月発行 350部

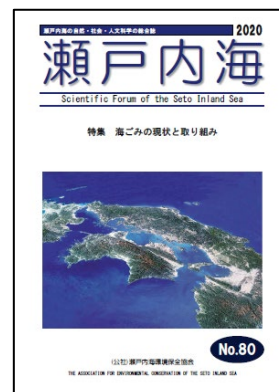
特集 海ごみの現状と取り組み

第81号：令和3年3月発行 350部

特集 瀬戸内海における水産食品の安全管理

- ・無償配布：会員団体
- ・有償配布：年間購読者等

年間購読料 2,500円（税込み）



「瀬戸内海」第80号

②資料集「瀬戸内海の環境保全－令和2年度版－」の作成

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、資料集「瀬戸内海の環境保全－令和2年度版－」を作成しホームページに掲載した。（1年間は会員のみアクセスを限定）。

③協会ホームページによる情報の発信

瀬戸内海の環境保全に関する環境学習情報等を広く一般の方も容易に入手できるとともに、環境保全に取り組むNPOのネットワーク化にも役立つよう情報を発信した。

④メールマガジンによる情報の発信

会員府県市、漁業団体、環境衛生団体及び協会が有するトピックスを収集し、情報共有や施策立案等だけでなく、会員を通じた普及啓発に資する情報発信を行った。

2 瀬戸内海の環境保全・創造に関する調査・研究事業

(1)調査・研究事業

豊かで美しい瀬戸内海実現に資する調査・研究事業について、環境省と兵庫県から受託し、外部資金の獲得を目指し活動を行った。

①令和2年度瀬戸内海における豊かな海の確保に向けた方策検討業務

瀬戸内海をはじめとする閉鎖性海域では、水質汚濁防止法や瀬戸内海環境保全特別措置法による汚濁負荷量の削減等の取組が進められた結果、その水質は全体として改善傾向にある。一方で、赤潮や貧酸素水塊の発生といった問題も依然として確認されており、また、「豊かな海」の観点から、生物多様性・生物生産性の確保等の新たな課題への対応が求められている。

そのため、閉鎖性海域をめぐる新たな課題に対応するため、下記の項目を調査、検討した。

＜調査検討項目＞

- (1) 栄養塩類管理の具体的な方策に係る分析等に関すること
- (2) 藻場等の計画的な保全・再生・創出の具体的な方策に係る分析等に関すること
- (3) 瀬戸内海環境保全基本計画及び瀬戸内海の環境の保全に関する府県計画の指標の評価及び検討に関すること
- (4) その他瀬戸内海における豊かな海の確保に向けた方策検討に関する重要事項

本業務においては下記の委員で構成される有識者検討会が設置されている。
(委員長：広島大学教授 西嶋渉氏)

第1回有識者検討会（令和2年10月22日（木） 三宮研修センター）

議題は次のとおり

- (1) 本年度の検討方針について
- (2) 特定の水域における栄養塩類管理の取組に係る考察について
 - ①PDCAの具体的手順の考え方の整理
 - ②数値シミュレーションモデルを用いた周辺環境への影響の評価の試行について
- (3) 藻場等の計画的な保全・再生・創出の具体的な方策に係る分析について
- (4) 瀬戸内海環境保全基本計画及び瀬戸内海の環境の保全に関する府県計画の指標の評価及び検討について

第2回有識者検討会（令和3年1月7日（木） 三宮研修センター）

議題は次のとおり

- (1) 特定の水域における栄養塩類管理の取組に係る考察について
 - ①PDCAの具体的手順の考え方の整理
 - ②数値シミュレーションモデルを用いた周辺環境への影響の評価の試行について
- (2) 藻場等の計画的な保全・再生・創出の具体的な方策に係る分析について
- (3) 瀬戸内海環境保全基本計画及び瀬戸内海の環境の保全に関する府県計画の指標の評価及び検討について

第3回有識者検討会（令和3年3月8日（月） 三宮研修センター）

議題は次のとおり

- (1) 特定の水域における栄養塩類管理の取組に係る考察について
 - ①順応的管理プロセスによる栄養塩類の管理の手順(案)について
 - ②数値シミュレーションモデルを用いた周辺環境への影響の評価の試行について
- (2) 藻場等の計画的な保全・再生・創出に向けた自然海浜保全地区に係る分析について
- (3) 瀬戸内海環境保全基本計画等の指標に係る評価及び検討について
- (4) 令和2年度瀬戸内海における豊かな海の確保に向けた方策検討業務報告書(案)について

②令和2年度栄養塩類供給のための取組促進調査業務

瀬戸内海の栄養塩類濃度は大幅に低下し、生態系維持水質の確保が難しい状況となっており、豊かで美しい瀬戸内海を再生するためには、陸域からの栄養塩類のさらなる供給が必要である。

そこで本業務では、望ましい生態系を維持するための負荷量レベルを検討するため、陸域からの流入負荷量の変化状況を把握するとともに、負荷量と海域の栄養塩類濃度の関係や、栄養塩類濃度の変化によるプランクトン量の応答等を整理した。

II 一般事項

1 会議等の開催

(1) 総会

①定時総会（令和2年5月29日（金） 書面開催）

- ・ 令和元年度事業報告及び決算
- ・ 会費の額
- ・ 国に対する提案
- ・ 令和2年度事業計画及び収支予算

(2) 理事会

総会付議事項及び業務の執行に関する事項を協議した。

①第16回理事会（令和2年5月14日（木） 書面開催）

- ・ 正会員の入会承認（吹田市）
- ・ 専門委員の委嘱
- ・ 定時総会付議事項

②第17回理事会（令和3年3月25日（木）開催）

- ・ 令和2年度事業実施状況
- ・ 令和3年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

①企画委員会

協会が行う事業の総合的な企画調整並びに運営について審議を行う。

第1回企画委員会（令和2年11月11日（水） 神戸国際会館セミナーハウス）

- ・ 令和2年度事業実施状況
- ・ 令和3年度事業計画（素案）など

第2回企画委員会（令和3年2月16日（火） 三宮研修センター）

- ・ 令和2年度事業実施状況
- ・ 令和3年度事業計画案及び収支予算書（案）など

②編集委員会

協会が発行する「瀬戸内海」の編集方針を定めるとともに、特集テーマや掲載内容及び執筆者等の検討を行う。

第1回編集委員会（令和2年10月12日（月） 神戸市勤労会館）

- ・ 「瀬戸内海」80号の編集結果について
- ・ 「瀬戸内海」81号の原稿収集について
- ・ 「瀬戸内海」82号の特集について

第2回編集委員会（令和3年3月3日（水） 三宮研修センター）

- ・ 「瀬戸内海」82号の原稿収集について
- ・ 研究論文での新連載「令和の里海づくり」について

- ・「瀬戸内海」83号の特集について

③海文化委員会

海文化事業の推進を図るため、情報の活用方策の検討を行う。

第1回海文化委員会（令和2年9月3日（木） 神戸市勤労会館）

- ・「瀬戸内における水環境を基調とする海文化（瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み）」の編集状況について

第2回海文化委員会（令和3年1月21日（木） 神戸市勤労会館）

- ・瀬戸内の日々の生活に根ざした身近な景観と保全の取り組み冊子最終稿について

④賛助会員部会

協会活動に対する賛助会員の積極的な参画と賛助会員に係る事業の検討・企画を行った。

令和2年度賛助会員部会（令和2年8月27日（木） 神戸市勤労会館）

- ・平成2年度賛助会員に関する事業等について

(4) 参事・事務局長並びに担当課長会議（令和3年3月11日（木） 三宮研修センター）

会員に対する協会事業の理解と周知を図るとともに、事業活性化のため、会員相互の情報交換等を行った。

2 専門委員の委嘱

企画委員、編集委員、海文化委員、賛助会員部会委員を委嘱した。

(1) 企画委員（13名）

奥田孝史	大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長
上西琴子	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
河村敏成	広島県環境県民局環境保全課長
小蓑雅也	香川県環境森林部環境管理課長
芦刈光日出	大分県生活環境部参事監兼環境保全課長
松井直樹	大阪市環境局環境管理部土壌水質担当課長
植木啓次	神戸市環境局環境保全部水・土壌環境担当課長
西村義文	八尾市経済環境部環境保全課長
藤井厚匡	福山市経済環境局環境部環境保全課長
渡辺英典	山口県漁業協同組合参事兼指導部長
横山大志	愛媛県漁業協同組合参事
上田康二	（一財）広島県環境保健協会地域活動支援センター長
平川雅昭	（公社）山口県快適環境づくり連合会事務局長

(2) 編集委員（10名）

井上尚和	(株)神戸製鋼所環境防災部担当部長
小蓑雅也	香川県環境森林部環境管理課長
浜名功太郎	環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室室長補佐
佐山 浩	関西学院大学総合政策学部教授
上西琴子	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長(知事・市長会議事務局)
反田 實	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター技術参与
仲西 健	(一財)広島県環境保健協会地域支援課長
藤原建紀	京都大学名誉教授
松村保孝	関西電力株式会社火力事業本部 火力運営部門発電グループ チーフマネジャー
鷺尾圭司	元国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校 理事長

(3) 海文化委員 (10名)

五十嵐正和	京都府府民環境部環境管理課長
上西琴子	兵庫県農政環境部環境管理局水大気課長
中谷茂正	和歌山県環境生活部環境政策局環境管理課長
白髪輝夫	岡山県環境文化部環境管理課長
河村敏成	広島県環境県民局環境保全課長
小蓑雅也	香川県環境森林部環境管理課長
古川宏史	愛媛県県民環境部環境局環境政策課長
北村伸也	兵庫県漁業協同組合連合会指導部指導担当課長
渡辺英典	山口県漁業協同組合参事兼指導部長
上田康二	(一財)広島県環境保健協会地域活動支援センター長

(4) 賛助会員部会委員 (8名)

松村保孝	関西電力(株)火力事業本部火力運営部門 発電グループ チーフマネージャー
小西達也	川崎重工業(株)地球環境部環境管理課長
井上尚和	(株)神戸製鋼所環境防災部担当部長
前谷徹也	マツダ(株)プラント技術部環境・エネルギー技術グループ マネージャー
竹谷建吉	四国電力(株)立地環境部環境グループ グループリーダー
泉 伸司	いであ(株)大阪支社執行役員
安芸晋治	大塚製薬(株)徳島本部環境課長
吉田智則	山口県瀬戸内海環境保全協会 (株)トクヤマ 徳山製造所環境安全部環境管理課長)